

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2004年放送分](#) > 4月10日放送分 革新的なこととは？～経営革新で伸びる自転車ハブメーカー～

4月10日放送分 革新的なこととは？～経営革新で伸びる自転車ハブメーカー～

10日(TX・TVO・TSC)

11日(TVA・TVH・OX・TVQ・RCC・TVQ・OTV) 12日(BSJ)

中国製の低価格自転車の急増で国内自転車業界は苦戦を強いられている。大阪の自転車用ハブ専門メーカーとして、10年前まで国内シェア約50%占めていた(株)中野鉄工所(資本金6,000万円、従業員数31名)も、例外ではなかった。その現状を打破するため、同社は高付加価値化の実現に挑戦、世界初の画期的なハブの開発に成功した。新製品開発により成熟産業で新たな道を切り拓いた同社の生き残り戦略を紹介する。

革新的なこととは？

～経営革新で伸びる自転車ハブメーカー～

～

[視聴覚教材No. TV16-2](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



自転車に乗って登場した志垣さん。中国製の低価格品に押され苦戦している自転車業界で、革新的な部品を作り出した会社がある。その革新的なものとは？

中野鉄工所の中野社長。自転車用ハブ(車輪中心部の部品)を専門に製造している。自転車製造は分業化されており、各部品メーカーと組み立てメーカーがあるという。





これが自転車のハブ。

「現在、自転車の8割は中国からの輸入品。残り2割も部品も含めて国内で製造された純粋な日本製は非常に少ない。」と中野社長。



厳しい価格競争で他社が撤退していく中、中野鉄工所はハブ専門メーカーとして国内製造を死守。オリジナルの機械を作るなどしてコストダウンに努めた。

POINT: 自分で設計したオリジナルの機械を作って勝負!



自転車の一番の問題点であるパンクを解決しようと、世界初の乗るだけで自動的にタイヤに空気が入る「エア－ハブ」を開発。これで空気入れも不要!

POINT: ユーザーが一番困っていることを解決する!



社長と共にエア－ハブの開発をした山本部長は「センサーの使用を考えたが、社長



が新しい技術を使うとすぐ故障すると言うのでやめた。」と話す。そこで工場で使っている機械の原理を応用。

POINT: 新しい技術には信頼性に課題が...



自転車店へパンク修理で来たお客さんにエアークラップについて聞いてみると「パンクの心配もないので、買い換えるならこれが欲しい!」と興味津々。



中小企業経営革新支援法に基づき貸付を行った商工中金堺支店の内田支店長。「細かい事業計画、そして経営者自らが様々な問題を進んで解決していく力強いリーダーシップが大事。」と話す。

POINT: 事業計画をつくる

POINT: 経営者の強いリーダーシップ!



中野社長は「昔は汗水たらして作りさえすればよかったが、今は新しい物を作れば、次の物を準備していかないとならない。」と話し、大変ではないかと尋ねられると「それが生きがいです。」と笑顔で答えた。



[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN